

国立国会図書館



館長挨拶 「連携と対話を深めながら 平成 28 年の新年を迎えて」

メリーランド大学所蔵プランゲ文庫 ～占領期出版物は宝の山～
ワシントン D.C. 駐在員滞在記

図書別室の資料から 第 3 回 絵はがき

世界図書館紀行 リヤド (サウジアラビア)

お答えします、図書館送信のギモンあれこれ Part 1

2016.1
No. 657

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00		
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30		
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

C O N T E N T S

- 02 連携と対話を深めながら 平成28年の新年を迎えて
- 04 日・獨・伊親善藝術使節渡歐記念アルバム 第2次世界大戦勃発直前にヨーロッパに咲いたすみれ花 一宝塚少女歌劇団欧州公演
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 06 メリーランド大学所蔵プランゲ文庫 ～占領期出版物は宝の山～
- 10 ワシントンD.C.駐在員滞在記
- 14 What's 書誌調整 ふたたび 第4回
典拠は大切—Web NDL Authoritiesを使ってみよう!— (後編)
- 17 図書別室の資料から 第3回 絵はがき
- 20 世界図書館紀行 リヤド (サウジアラビア)
- 28 数字で見る国立国会図書館 『国立国会図書館年報 平成26年度』から
- 30 お答えします、図書館送信のギモンあれこれ Part 1

27 館内スコープ

本を展示してみよう ～平成27年度子ども霞が関見学
デーイベントより～

34 本屋にない本

○『銀行券にみる近現代世界の国々』

35 NDL NEWS

- 法規の制定
- 平成27年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

36 お知らせ

- 電子書籍・電子雑誌収集実証実験事業を開始しました
- 国際政策セミナー「グローバル化の中の議会の役割—欧州の経験から日本への示唆」
- 平成27年度の利用者アンケートの結果を公表しました
- 国際子ども図書館講演会「イギリスの絵本作家エミリー・グラヴェット—絵に生きる」
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

連携と対話を深めながら

—平成28年の新年を迎えて—

国立国会図書館長 大滝 則忠



新年あけましておめでとうございます。年頭に際し、本誌読者の皆様からの日頃のご理解ご支援に対して、改めて心からお礼を申し上げます。

国立国会図書館は、衆・参両院の正副議長および議院運営委員会（図書館運営小委員会）の監督のもと、国会の活動を補佐することをはじめとして、国内外の利用者の多様なニーズに応えることができるように、多面的に活動しております。平成16年以来、数年ごとに活動の中期ビジョンを公表しており、現在は、平成24年夏に策定した「私たちの使命・目標 2012-2016」の実現に向けて取り組んでおります。現在のビジョンに掲げた概ね5年間の中期的な活動目標の柱は、「国会の活動の補佐の強化」「収集・保存における納本制度の充実とデジタル時代への対応」「情報アクセスの向上」「国の内外の関係機関との連携協力の推進」「東日本大震災アーカイブの構築」「透明性が高い効率的な運営管理」の6つです。本年は、このビジョン実現の最終年にあたりますので、鋭意それらの目標の達成を目指します。

ここで、本年の重点的な課題について、これまでの活動報告を含めて申し述べます。

第一に、国会の活動の補佐については、国会サービスをさらに高度化することが目標です。広範な国政課題に関して、信頼性高い専門的調査・分析を行い、迅速かつ的確に情報提供できるよう努めます。国会議員からの依頼に基づく調査の一層の充実を図るとともに、今後の国政課題に対する予測調査を、特に外国の制度や立法事情の関係情報を駆使して実施します。また、国会と国民をつなぐ役割として、国会情報を収集して国民がアクセスしやすくなる活動に重点的に取り組みます。一方、諸外国の議会図書館等、立法補佐機関との連携を進めて、世界的な調査ネットワークの発展に貢献できるよう取り組んでおります。一例として、ベトナム社会主義共和国における国会図書館の新設に際しては、一昨年から協力をを行い、国立国会図書館における国会サービスの経験が様々に活かされました。

第二に、施設整備として、平成26年11月に国立国会図書館建築委員会から国会に対する勧告が行われた、書庫増設のための関西館第2期工事の実施に関しては、平成31年度の竣工を目指しています。一方、昨年9月に、待望の国際子ども

図書館新館が開館し、両院議長をはじめ関係各位のご臨席のもとで新館完成記念式典を挙げてまいりました。本年春には既存棟の改修工事が済み、新しい国際子ども図書館の活動が始まります。

第三に、図書館資料を充実させるために、懸案の有償の電子書籍・電子雑誌の制度的収集に向けて、昨年12月から、電子書籍・電子雑誌収集実証実験事業を開始いたしました。これは、出版界の協力を得て、電子書籍・電子雑誌につき、従来の印刷媒体の納本制度と同様に、文化的資産として次代に継承するための新制度のあり方を探るものです。一方、昨年12月には、科学技術情報整備審議会から、今後の科学技術情報整備のあり方についての提言を頂戴いたしました。本年は、この提言を基礎に、館として第四期科学技術情報整備基本計画を策定して実施していきます。

第四に、情報アクセスの向上のため、引き続き、デジタル時代に対応することが課題です。平成26年度補正予算において、所蔵資料デジタル化の経費約10億円が計上され、現在、そのデジタル化作業が進行中です。この予算措置は、災害対応力の強化が目的で、関係する所蔵資料のデジタル化の成果が各地の防災・減災に向けた活動に活かされることを期待しています。また、図書館向けデジタル化資料送信サービスは、昨年中に都道府県立図書館の全てが利用登録するなど、着実に利用館が増加し、全国の利用者サービスにおける活用が広がっています。さらに、視覚障害のある方等の読書機会の拡大のために、全国の関係機関との連携のもと、デジタル化資料データをテキスト化

する実証的な取り組みを進めており、近い将来、テキスト化データの自動音声による読み上げなど、視覚障害のある方等に対する利便性高いサービスの実現を目指して取り組んでまいります。

第五に、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）の充実に向けて、さらに強力な取り組みを進めます。被災地での記憶の保存・継承の機運が高まる一方で、各地域のアーカイブを独自に、長期にわたり運用することが必ずしも容易でない事態も生じつつあります。そこで、各地のアーカイブ活動と「ひなぎく」の連携を一層深化させ、国全体として後世に大震災に関するあらゆる記録を可能な限り広範に伝える役割の一端を担っていきます。

昨今の国立国会図書館の活動においては、様々な機関等との密接な連携のもとで進める必要性が一層高まっていると感じます。この連携先は、従前の図書館・情報提供機関に限らず、文化的資産に係るあらゆる関係団体・機関等や関係府省庁に及んでいます。上記のように利用者の利便性が高まるように取り組むことは、場合によっては社会における他の諸活動と利害が競合する事態も生じます。今後とも関係者と丁寧な対話を重ねて、合意を得つつ、解決を図っていく必要があります。

新年を迎え、国立国会図書館は、このような連携と丁寧な対話を深めながら、諸課題に取り組み、社会からの強いご期待に応えるべく、さらなる歩みを近きより進めたいと決意しております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

国立国会図書館の蔵書から

日・獨・伊親善藝術使節渡歐記念アルバム

第2次世界大戦勃発直前にヨーロッパに咲いたすみれ花 一宝塚少女歌劇団欧州公演

武田 和也

一月一日 晴

朝、元旦祝賀式。(中略)

昼、秦氏須藤氏、ベルリンより餅、トン持参にて帰らる。¹

昭和14(1939)年1月1日、真冬のドイツ南西部の街、フライブルグのホテルで元旦を迎えた日本人一行がいた。

前年の10月2日に神戸港から靖国丸で出航した宝塚少女歌劇団生徒30名以下、団長・小林米三、総監督・秦豊吉、楽長・須藤五郎、大道具、小道具、衣装係等、総勢48名からなる日・獨・伊親善藝術使節団の一行である(写真1)。

一行の目的は、日独伊防共協定締結の1周年を記念し、また、国際的に孤立しつつあった日本に対する独・伊両国の好意に感謝するため、親善の大任を帯びて芸術使節として両国で公演を行うことにあった。今回紹介するアルバムは、この巡業中の様子を撮影した写真や、小林と生徒の日記で構成されている。

航海中、第二次上海事変中の上海での日本軍への慰問公演や、シンガポールでの現地日本人への公演等を行いつつ、船上でプール(写真2)やデッキゴルフ(写真3)等を楽しんだ一行は、昭和13年11月2日にイタリア・ナポリに上陸し、4日夜11時、最初の目的地ドイツ・ベルリンに列車で到着した。

ところが、ドイツ・オペラ劇場で実施するはずであったベルリン公演が、関係各所との意思疎通の齟齬で話が全くまとまっておらず、秦の奮闘で、20日から23日にかけて国民劇場で公演を実施することが決定した。欧州公演中の秦の奮闘ぶりや一行の様子は彼の日記『宝塚欧州公演日記抄』²に詳しい。

ナチス政権下のドイツは、オーストリア併

合、チェコスロバキア・ズデーテン地方の割譲など勢いを強め、情勢は緊迫しており、ユダヤ人への迫害も始まっていて、一行がベルリン滞在中には、商店の打ち壊しやシナゴグへの放火などが起こっている(水晶の夜事件)。

欧州入りしてから決まったポーランド公演を経て、再びイタリア国内に入った一行は、9つの劇場で公演を行っている。ローマ公演ではイタリア皇后とムッソリーニ首相の、ナポリ公演では同皇太子・皇太子妃の来臨を受けた。さらに、年末の休養を挟み、12月28日から翌昭和14年1月にかけては、ドイツに戻って、15の劇場で公演を行っている(写真4)。

当時の「宝塚」はモン・パ리에代表されるようなレビュー中心の公演であったのに対し、欧州公演では歌劇団創設者の小林一三の意図もあり、紅葉狩、三番叟、宝塚音頭等、「日本物」の公演が行われた(写真5)。また、大部分の公演が現地到着直後の夜に公演を実施する「乗り打ち」公演で、楽長の須藤は現地の楽団を指揮するのに四苦八苦している。

秦や生徒の日記からは、ベルリンでは、お寿司・すき焼き・鰻丼等を食べていることがうかがえるが、列車内ではパン・ソーセージを食べることもあり、生徒らは日本食を恋しがっている。一方、アルバム部分では、公演の合間に観光を楽しんでいる様子を見ることができる(写真6)。

再びナポリに到着した一行は、1月29日、伏見丸に乗船し日本に向けて出港した。3月4日に神戸港に到着。約5か月にわたる海外公演は終了した。訪問先のドイツがポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が勃発するのはその約半年後の9月1日のことである。

(たけだ かずや 関西館図書館協力課)

1 小林米三「訪獨伊親善藝術使節寶塚少女歌劇団日誌」(『日・獨・伊親善藝術使節渡歐記念アルバム』所収)

2 秦豊吉『私の演劇資料』第4冊<請求記号 770.4-H317w>

○参考文献

『宝塚歌劇四十年史』<請求記号 766.7-Ta377t3>

『宝塚歌劇五十年史』<請求記号 766.7-Ta377t3>

『夢を描いて華やかに：宝塚歌劇80年史』<請求記号 KD597-E51>

『すみれ花歳月を重ねて：宝塚歌劇90年史』<請求記号 KD597-H13>

『虹の橋渡りつづけて：宝塚歌劇100年史・舞台編』<請求記号 KD597-L13>

渡辺裕『日本文化モダン・ラブソディ』春秋社、2002年<請求記号 KD151-H1> 第7章「宝塚アイデンティティ」の形成とオリエンタリズム一九三八年・宝塚のベルリン公演

岩淵達治『水晶の夜、タカラヅカ』青土社、2004年<請求記号 KD597-H26>

朴祥美「『近代日本』を世界に見せる - 戦時期対外文化政策と宝塚少女歌劇団の欧米公演 -」『思想』1026号(2009年10月)<請求記号 Z23-90>

第13回関西館小展示「花ひらく少女歌劇の世界」(2013年) http://www.ndl.go.jp/event/exhibitions/1199016_1376.html



日・独・伊親善芸術使節渡欧記念アルバム
 東郷静雄 撮影 宝塚少女歌劇団刊 昭和 14年
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1028514> (モノクロ画像)



写真1



写真2



写真3



写真5

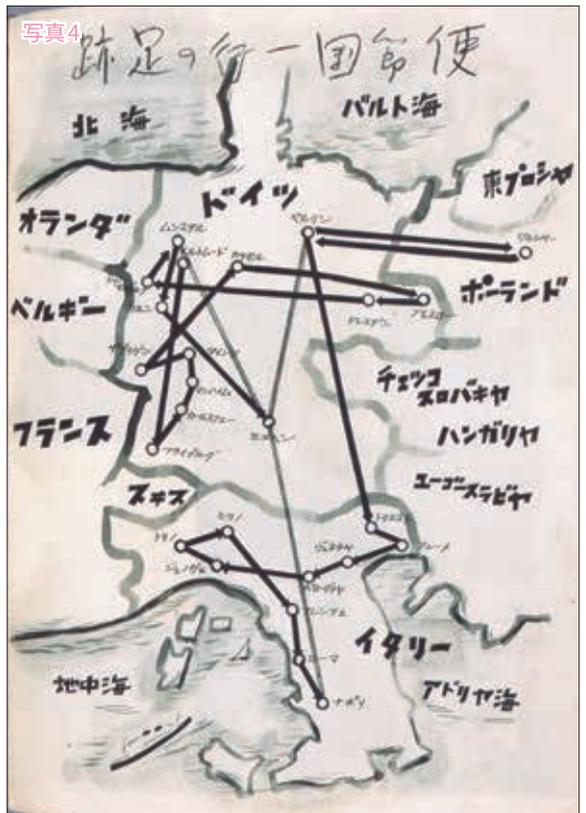


写真4



写真6

BOOK DEPT.
FILE COPY

メリーランド大学所蔵 プランゲ文庫 ～占領期出版物は宝の山～

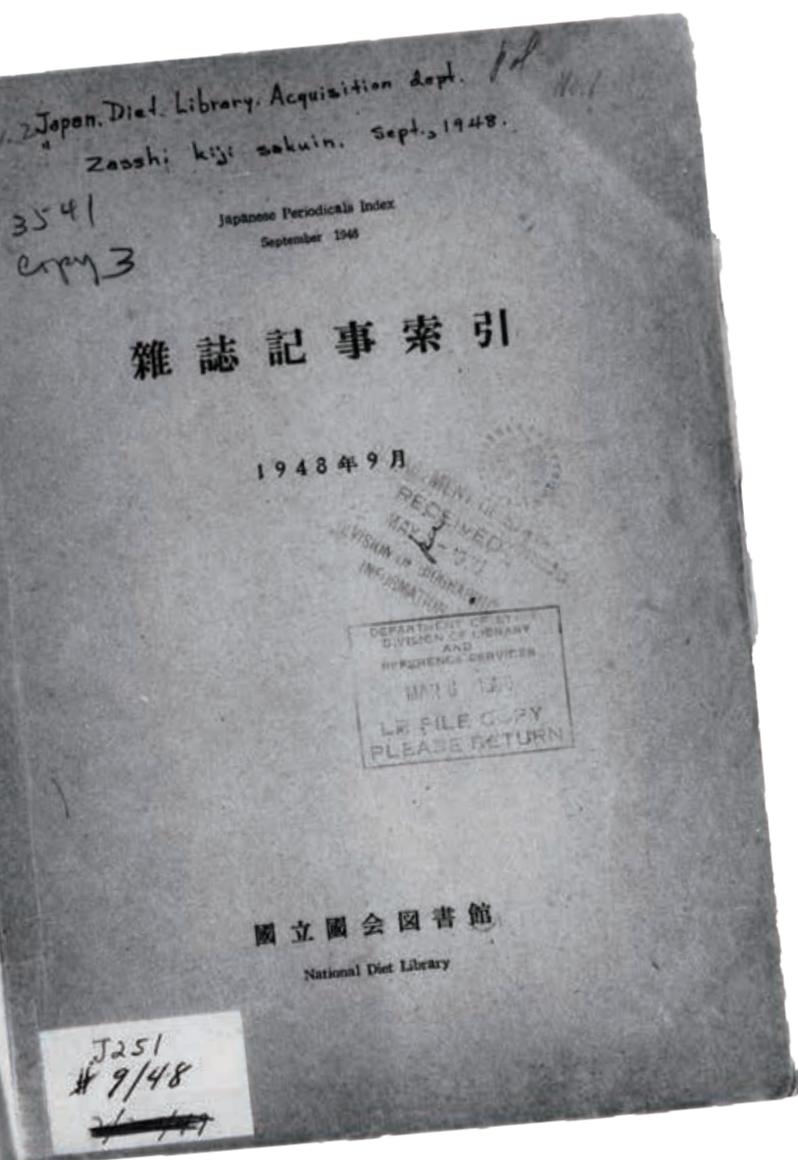
プランゲ文庫とは、日本が占領下にあった時期に、占領軍が検閲のために収集した図書、雑誌、新聞等のコレクションです。メリーランド大学が所蔵するこの貴重なコレクションを、国立国会図書館はマイクロフィルムやデジタル画像などで収集しています。

【プランゲ文庫とは】

日本の占領にあたった連合国最高司令官総司令部 (GHQ/SCAP) は、1945年9月以降に、郵便や映画、放送など、民間におけるすべての通信報道活動に対して検閲を行いました。検閲を担当したのは参謀第二部 (G-2) の民間検閲支隊 (Civil Censorship Detachment, CCD) でした。

出版物については、日本出版法 (Press Code for Japan, プレスコード) に基づいて検閲が行われ、プレスコードに違反した場合、記述の削除や出版禁止などの処分が下されました。当初は出版前に検閲をする「事前検閲」が中心でしたが、徐々に「事後検閲」が主流になり、1949年まで続きました。出版者は、事前検閲の場合は出版前のゲラを、事後検閲では出版物をそれぞれ2部、CCDへ提出することが義務付けられました。ゲラおよび出版物の1部は返却され、1部がCCDに保存されました。

CCDが廃止された際、G-2で戦史編纂に携わっていたメリーランド大学教授のプランゲ博士が、CCDが残したゲラや出版物の重要性を認識し、他



9/48
1/1/11

大学との争奪戦の末、メリーランド大学に運び込みました。この資料はのちに「プランゲ文庫」と名付けられ、現在もメリーランド大学で整理が進められています。

プランゲ文庫には、図書・パンフレット約71,000タイトル、雑誌約13,800タイトル、新聞約18,000タイトル、その他報道写真や地図、検閲を受けた新聞のゲラなど、様々な資料が含まれています。本文に大きく×印がされて「Delete」と書き込まれるなど、検閲の痕跡が残る資料も多く含まれています。また、出版物だけでなく、出版者によって提出された検閲願いや、CCDによる検閲関連文書が添えられた資料もあります。

【当館でのプランゲ文庫の利用方法】

当館は、メリーランド大学と協力して、1990年代から雑誌や新聞・通信をマイクロフィルムに複製して入手し、公開してきました。2005年からはメリーランド大学との共同事業として図書のデジタル化を開始し、現在も当館職員がワシントンに駐在してデジタル化を進めています（p.10「ワシントンD.C. 駐在員滞在記」参照）。

○資料利用方法

プランゲ文庫は、種類によって媒体や利用場所が異なります（下表参照）。

種類	媒体	利用できる場所
新聞	マイクロフィルム (モノクロ)	東京本館憲政資料室
雑誌	マイクロフィッシュ (モノクロ)	東京本館憲政資料室 (一部デジタルコレクション ※1)
一般図書	デジタル (カラー)	デジタルコレクション ※1※2
児童書	デジタル (カラー)	デジタルコレクション ※1

※1 国立国会図書館内限定公開

※2 現在も収集中で随時追加しています。

憲政資料室所蔵の雑誌・新聞のマイクロ資料については、当館の利用者登録をした上で、憲政資料室にて利用申請が必要です。後述する方法で検索し、VH1、VH3で始まる請求記号を控えてお越しください。

国立国会図書館デジタルコレクションで公開している資料は、東京本館、関西館、国際子ども図書館の館内で閲覧が可能です。

いずれも、来館しての複写（プリントアウト）や遠隔複写が可能です。

プランゲ博士 (Gordon W. Prange)

プランゲ博士は、1910年米国のアイオワ州に生まれました。アイオワ大学で歴史学を学び、1946年から1980年に急逝するまでメリーランド大学の教授を務めました。一方で、1946年以降、G-2歴史室に勤務し（1949年からは戦史室長）『マッカーサー戦史』の執筆・編纂に当たりました。その縁で、CCDが解散した際、資料を母校に寄贈することに尽力し、2年近くかけて500箱もの資料を東京からメリーランド大学に送りました。1978年には、その功績をたたえ、その資料群が「プランゲ文庫」と命名されました。また、来日中には真珠湾攻撃の研究を行い、代表作『トラトラトラ』は映画化もされました。



○資料検索方法

国立国会図書館サーチや、デジタル化された資料は国立国会図書館デジタルコレクション（以下、デジタルコレクション）でも検索することができますが、ここではNDL-OPACでの検索方法をご紹介します¹。

探す目的に応じて「詳細検索」で下表のように入力し、検索することができます。「簡易検索」でもタイトル等で検索することができます。

また、NPO法人インテリジェンス研究所が作成した「20世紀メディア情報データベース」²では、プランゲ文庫の雑誌と新聞について、記事の見出しから検索することが可能です（有料）。

【プランゲ文庫は宝の山】

プランゲ文庫は、占領期の検閲研究はもちろん、ほかにも幅広い目的で使われます。

占領下の出版物として

占領期に限らず、ある時代の出版物を調査することは、当時の社会やメディアを理解する上で非常に重要な方法です。占領期は特に日本社会の大きな転換点であるため、研究対象となることが多く、プランゲ文庫はよく用いられます。また、地元では散逸しがちな地方紙なども収録されているので、郷土史編纂に使われます。たとえば、東京都公文書館が東京都の歴史をまとめた資料集では、占領期の巻³で「プランゲ文庫所蔵新聞にみる当時の東京」として、90点もの資料が引用されています。

一般的には図書館では保存されにくい、漫画や団体内部の小冊子等が含まれている点も、占領期の研究に役立っています。

納本された資料を補うものとして

国立国会図書館の納本制度は1948（昭和23）年5月に開始されましたが、検閲が終了する1949年ごろでも網羅的な収集はできていませんでした。その

目的	詳細検索の項目名	入力する文字列
プランゲ文庫全体を検索したい ※1	注記	プランゲ文庫
新聞だけを検索したい	請求記号	VH3*
雑誌だけを検索したい	請求記号	VH1*
一般図書だけを検索したい	注記	メリーランド大学プランゲ文庫
児童書だけを検索したい	請求記号	VZ3*
検閲に関する文書が付属している資料を検索したい ※2	注記	プランゲ文庫 検閲

※1 プランゲ文庫ではないものが若干数含まれます。

※2 検閲に関する事務文書や、検閲の断片（検閲された箇所を抜き出したもの）を意味します。書誌データに「検閲」と書いていない場合でも、資料本体に書き込みがある場合、検閲に関する文書が付属している場合があります。



表内「詳細検索の項目名」は、①から選択できます。②には、「入力する文字列」をそのまま入力します。



国立国会図書館内では、NDL-OPACのそれぞれの書誌の「デジタル化資料」アイコンから、デジタルコレクションで館内公開されている資料の本文画像を閲覧することができます。

ため、当館に所蔵のない図書や、雑誌新聞の中で欠号になっているものが、プランゲ文庫にだけある、ということもよくあります。

小松左京の作品がプランゲ文庫の中から発見された際には、「プランゲ文庫は現代史に興味がある人にとって資料の宝庫。研究者に限らず、多くの人が資料を気軽に見られると知ること、思いがけない発見につながる可能性がまだまだある」⁴と報じられました。すべてをデジタル化するのには時間がかかる見込みですが、メリーランド大学と協力し、日本での公開を進めていきます。

(利用者サービス部政治史料課)

- 1 リサーチ・ナビ「プランゲ文庫資料の検索」も参照。
<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/senryo-prange.php>
- 2 <http://20thdb.jp/>
- 3 東京都（東京都公文書館）編『都史資料集成.2第2巻(自治体東京都の出発)』東京都 2015<請求記号 GC65-L39>
- 4 共同通信配信。括弧内は明治大学宮本大人准教授（漫画史）の言葉として30紙以上で報じられた。

○参考文献

- 巽由佳子「ゴードン W. プランゲ文庫—由来・発展・展望—」『記録と史料』25 (2015.3)
- 坂口英子「占領期(1945~1949)GHQの出版物検閲—図書・パンフレットを中心としたプランゲ文庫所蔵資料の現状」『Intelligence』12 (2012.3)
- 主題情報部政治史料課「プランゲ文庫収集事業の現状—メリーランド大学のメディア変換作業を中心に—」『国立国会図書館月報』500 (2007.11)
- 奥泉栄三郎『「トラ・トラ・トラ」の行方とその周辺—歴史家G・W・プランゲの叙述手法』『出版研究』30 (1999)
- 大島康作 藤原夏人 中村淳一「プランゲ文庫誕生の—コマ プランゲ博士の書簡紹介を兼ねて—」『参考書誌研究』60 (2004.3)
- 『GHQ日本占領史. 第17巻 (出版の自由)』日本図書センター 1999

小松左京作品の「発見」

2014年6月、『日本沈没』などで有名な作家の小松左京(1931-2011)が、学生時代に本名で描いた漫画がプランゲ文庫で発見されたと話題になりました^{*1}。

小松左京のファンが、デジタルコレクションに収録された小松実著「怪人スケルトン博士」を読み、「小松左京の作品ではないか」と気づいたのです。小松左京自身が、この漫画を描いたことについてはっきりと言及していなかったため、小松左京の著作権を管理する小松左京ライブラリが詳細に検討^{*2}して、「小松左京の作品であることは間違いない」と確認しました。「小松左京さん幻のデビュー作、米で発見」といった見出しで報じられ、一面で扱う新聞が出るなど、大きく取り上げられました。小松左京ライブラリによると、この本はまだ国内で見つからないとのことで、プランゲ文庫があってこそこの発見といえます。

*1 <http://current.ndl.go.jp/node/26353>

*2 <http://sakyokomatsu.jp/library/583/>



ワシントンD.C. 駐在員滞在記

成原 貴彦

私は、国立国会図書館が行っている占領期資料収集事業の一環として、所蔵機関調査や資料確認、および資料デジタル化のための準備・調整作業を行うため、平成27年4月から2年間の予定で米国ワシントンD.C.に滞在しています。滞在に際してはメリーランド大学プランゲ文庫に交流訪問者として受け入れていただいています。プランゲ文庫では、社会科学分野・人文科学分野の図書および小冊子類のデジタル化を進めるため、資料の状態や書誌事項の確認、検閲記録の調査などを行っています。



私がいまプランゲ文庫で作業している図書は、教育分野のうち理科の学習参考書や副読本などで、昭和20年から24年までに発行され、連合国最高司令官総司令部 (GHQ/SCAP) 民間検閲支隊 (CCD) によって検閲を受けたものです。大半の図書には、出版者が作成して図書とともにCCDに提出した文書が添付されており、資料のタイトルや著者などの書誌事項のほか、出版部数や発行日など、CCDに提出を求められた情報が含まれています。文書は出版者ごとに一定の様式が定められている例が多くみられ、検閲への対応が出版者の側で通常業務の一部として事務的に処理されていた様子がうかがえます。



一方、CCDが作成した文書が添付されていることもあります。そこには資料の目次情報が英語で書き起こされ、検閲担当者の署名、検閲処分の結果、および処理した日付などの情報が確認できます。プランゲ文庫は雑誌も所蔵しており、雑誌にはCCDが作成した文書が添付されていることが多いのに対し、図書の場合は出版者が作成した文書が多く添付され

ているという違いがみられます。同時に、図書の表紙にはCCDが付与した資料の通し番号 (CCD No.) や発行部数、検閲日などの書き込みがなされ、CCDのスタンプが押されています (下図左)。

検閲の結果、記述の削除 (Deletion) 処分が行われた図書については、削除を指示する書き込みがあるページの断片 (Fragment) もあわせて所蔵されており、記述を削除して実際に出版された図書と比較することができます。また、検閲の結果処分されなかった図書についても、本文中の書き込みなど、検閲作業の痕跡を見ることができます。私は、理科など自然科学系科目の学習参考書類について、検閲処分を受けるというイメージがあまり思い浮かばなかったのですが、「敗戦の最大原因も科学にあると言

はれて居ります」といった記述が削除処分を受けているのを見て、検閲の徹底ぶりを改めて知ることができました (下図右)。

先日、『軽い金属』という理科の参考書を手に取り、検閲作業の痕跡がないか全てのページをめくって確認していたところ、冒頭にアルミニウム精製の歴史についての説明が書かれていました。そこでは「ワシントン記念碑のとんがり帽子」という題で、ワシントンD.C.にあるジョージ・ワシントン記念塔 (Washington Memorial) が例に出され、19世紀の建造物であるこの塔の先端部分に、当時はまだ貴重であったアルミニウムが使われており、そのことがアメリカの科学の進歩を世界に誇ったものと想像される、と説明されていました。この図書に限らず、当



「自由の学習.理科の部」UMD Call No.366-0018 右写真中、上が検閲を受けた資料、下が検閲後のもの。

時の子ども向けの学習参考書の記述のレベルが全般的に高いことや、子どもにフィールドワークを促し、自分の考えを整理して表現する能力を求める内容が充実していることに大変驚きました。

このように、プランゲ文庫資料は、検閲に関する記録が残されているという側面だけでなく、検閲の結果として当時の日本の出版物が網羅的に所蔵されているという点で、この年代の日本の姿を伝える貴重なコレクションであることを再確認することができました。

メリーランド大学プランゲ文庫は、メリーランド州カレッジパークにあり、ワシントンD.C.の中心部から地下鉄で30分ほどの距離です。最寄りの地下鉄駅であるCollege Park-U of MDから大学の無料シャトルバスでおよそ5分、終点のRegents Drive Garageで降りると、目の前がプランゲ文庫のあるホーンベイク図書館（Hornbake Library）です。



ホーンベイク図書館 (<http://www.lib.umd.edu/hornbake>)

ホーンベイク図書館には、プランゲ文庫をはじめメリーランド大学図書館の特別コレクション（Special Collections）が集まっており、アメリカの労働組合のナショナルセンターであるAFL-CIO関係資料¹や、テレビ・ラジオなどの放送に関するコレクション²などがあります。また、プランゲ博士に関する個人文書のコレクションであるプランゲ・ペーパー（Gordon W. Prange Papers）も、1階のメリーランドルーム（Maryland Room）で閲覧することができます。一方、地下1階にはPCや音響機器が設置され音楽映像資料が利用できるほか、映像編集に関する授業が行われる部屋があり、いつも学生が多く集まっています。また、MITH（メリーランド大学人文科学技術研究所）³という組織が図書館の建物に入っており、先進的でユニークな研究活動を行って大学内外の関心を集めています。プランゲ文庫にお越しの際にホーンベイク図書館全体を探索していただくと、メリーランド大学の活気を感じていただけるのではないかと思います。

在学生3万人を超える大学のキャンパスは本当に広大です。私もごく一部しか歩いてみていませんが、図書館のすぐ近くの大学生協のカフェテリアで学生に混じってランチを食べていると、アメリカのTVドラマのワンシーンに紛れ込んだような楽しさがあります。今年で90周年になるというアイスクリーム屋さんはとても美味しく、学生にも人気があるようです。

メリーランド大学では、州立大学として地域へ貢献・還元する活動も行われており、毎年4月にはメ

リーランドデー (Maryland Day) というイベントがあります。これはいわば地元住民向けのオープンキャンパスといったもので、大学の各組織が日ごろの教育・研究活動を様々な方法でアピールするものです。プランゲ文庫は中国・韓国などの東アジアコレクションと共同で参加し、折り紙体験イベントを行いました。私が赴任してから最初にプランゲ文庫に対して貢献することができたのは、このイベントだったかもしれません。十数年ぶりに折り紙をすることになり、最初は頭が真っ白、しかも英語で折り方を教えるということで冷や汗の連続でしたが、参加してくれた子どもがあまりに折り紙に夢中になって次から次へと折り続け、他の展示も見たい親がソワソワする…といった状況になるなど、たいへん盛況のうちに終わりました。

メリーランド大学のそばには米国国立公文書館カレッジパーク館⁴もあり、大学からはC8番のメトロバスでおよそ10分、頑張って歩けば1時間ほどの距離です。この地理的な利便性を活かし、米国国立公文書館に占領期に関する文書調査に来る日本の研究者の方々が、ワシントンD.C.滞在中にプランゲ文庫でも並行して資料調査を行っています。また、メリーランド大学の教員の方に国立国会図書館の利用方法についてアドバイスを求められることもあり、プランゲ文庫での滞在中に、様々な分野の研究者と交流を深められることを大変うれしく思っています。

当館とメリーランド大学が進めているプランゲ文庫資料のデジタル化共同事業を契機として、よりいっそうメリーランド大学およびプランゲ文庫につ

いて日本の皆さんに知っていただき、貴重なコレクションが幅広く活用されることを願っています。

(なりはら たかひこ 利用者サービス部政治史料課)

- 1 The American Federation of Labor and Congress of Industrial Organizations
<http://www.lib.umd.edu/special/collections/afl-cio>
- 2 <http://www.lib.umd.edu/libraryofamericanbroadcasting>
- 3 Maryland Institute for Technology in the Humanities
<http://mith.umd.edu/>
- 4 National Archives and Records Administration; NARA
<https://www.archives.gov/dc-metro/college-park/>



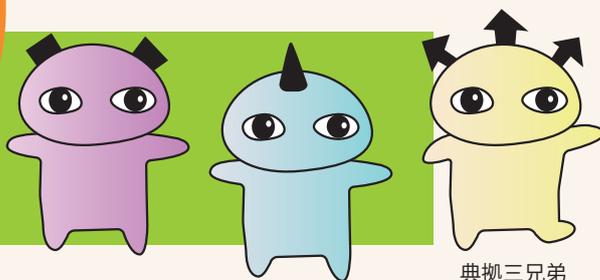
左上) プランゲ文庫の閲覧スペース。左奥と正面が書庫になっている。
右上) メリーランドデーのときにお客さんの誘導に使用した折り紙。メリーランド大学のシンボルキャラクターである亀を折ったもの。
下) プランゲ文庫の入口にある絵。p.10の上の写真と同一のもので、左右から見える絵が違う。

What's 書誌調整

第4回 典拠は大切

—Web NDL Authorities を使ってみよう!— (後編)

ふたたび



典拠三兄弟

こんにちワ、カーネ (CANE) です。ぼくと先生は、国立国会図書館 (NDL) の典拠データと Web NDL Authorities (略して Web NDLA。正式名称、国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス) ¹ について、典拠データと Web NDLA の妖精、典拠太郎・次郎・三郎くんたちから教わるようになったよ。同一表記の別人をふるいわけ、太郎くんの得意技<みわけ>、同一人物の別表記をひとまとめにする、次郎くんの得意技<まとめる> (ここまで先月号の前編) に続き、後編の今回は、三郎くんが得意技<つなげる>を見せてくれるみたい!



カーネ

典拠三郎

<つなげる>

カーネ 三郎くん、<つなげる>って、どんな技なの!?

典拠三郎 Web NDLA の典拠データは、

NDL の資料を探しただけではなく、ウェブの世界を通じてさまざまに役立つようになっているんです。これがぼくの得意技、<つなげる>!

カーネ それって、どういうこと?

三郎 むかし、典拠データが記録されていたのは手書きのカードでした (図1)。そこから典拠データは、冊子体、磁気テープ、CD-ROM と、いろいろなかたちで提供されるようになってきました。同時に、その使い道も広がってきます。はじめは図書館員による効率的な目録作りのためのものだったのですが、典拠データの蓄積が図書館の外にも公開され、目録作りに限らず、人物について調べるレファ



レンスツールなどとしても活用できるようになりました。さらに、ウェブサービスの Web NDLA で典拠データが Linked Open Data (LOD) として公開されるに至って、典拠データは新たな可能性をもつようになりました。

カーネ リンくとおーぷんでーた!?

三郎 LOD とは、誰でも自由に利用できるようウェブで公開された、つながるデータ (Linked Data) のことです。

カーネ データが「つながる」って、どういうこと!?

先生 LOD については、私から説明しましょう。これまでは、あのウェブページの中の「夏目漱石」という文字列と、このウェブページの中の「Natsume, Soseki」という文字列とが表しているのは同じ人物だというような判断は、文字列の意味を理解できる人間には簡単でも、機械には難しいことでした。でも、いちいち人間が判断する過程をはさまずに、それぞれのデータがもつ意味をコンピュータがウェブ上で理解し、自動的に処理していけば、たくさんのデータを手早くつなげていくことができます。このような枠組みをセマンティックウェブと呼びます。こうしたことを実現するため、さまざまなデータを LOD にする取り組みが進められているのです。



図1 典拠カード(左)とWeb NDLAの典拠データ表示画面(右) どちらの中身も同じ「福田英子」の典拠データ。

Web NDLAの典拠データのURLは<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlha/00013759>

LOD!



先生

カーネ データを LOD にしたら、つなげられるってことなの？

先生 ウェブの世界には、データをつなげるための共通の原則があります。まず、URI (Universal Resource Identifier) という、世の中にひとつしかない識別情報がそれぞれのデータに付与されていること。そして、コンピュータが意味を理解して自動的に処理できるよう、RDF (Resource Description Framework) という標準的なかたちでデータが記述されていること。さらに、より多くのデータが見つけれられるように、他のデータへのリンクを含むこと。LOD は、このような共通の原則に従い提供されています。Web NDLA の典拠データもこの原則に従っているので、NDL 以外の図書館のデータと結びつけやすくなっているのです。

カーネ 具体的にどんなデータと結びついているの？

三郎 Web NDLA は、国際的な典拠ファイルの VIAF²とも連携しています。「夏目漱石」の典拠データを例にとって見てみましょう(図2)。Web NDLA の典拠データ詳細表示画面の「関連リンク/出典」に、VIAF へのリンクがあります(①)。ここから VIAF の夏目漱石の典拠データ表示画面に移ることができます。画面上部(②)には、各機関が採用し

た標目形が並び、その下に VIAF でひとかたまりにした典拠データに付与している ID、その ID を用いた URL、創作者などの名称に関する国際標準識別子である ISNI (International Standard Name Identifier) が表示されています(③)。画面中ほどには、各機関の典拠データへのリンク一覧があります。横にある日本の国旗のアイコンをクリックすれば、Web NDLA の「夏目漱石」の典拠データ表示画面に戻ることができます(④)。

カーネ ほんとだ！ Web NDLA と VIAF との典拠データとは、お互いにリンクしてるんだね。

三郎 また VIAF の詳細表示画面ではほかにも、「Natsume, Sōseki, 1867-1916」、「나쓰메 소세키」(韓国・朝鮮語)、「ნაცუმე სოსეკი」(ジョージア(グルジア)語)など同じ人の名前の別表記や、「吾輩は猫である」、「I am a cat」、「Je suis un chat」など典拠データにひもづく書誌のタイトルなども見ることができます。Web NDLA の典拠データは、VIAF を通じて世界の国立図書館などの典拠データ、さらにはそれにひもづく書誌データなど、いろいろなデータとつながりを持っているんです。

カーネ 世界とつながってるんだね！

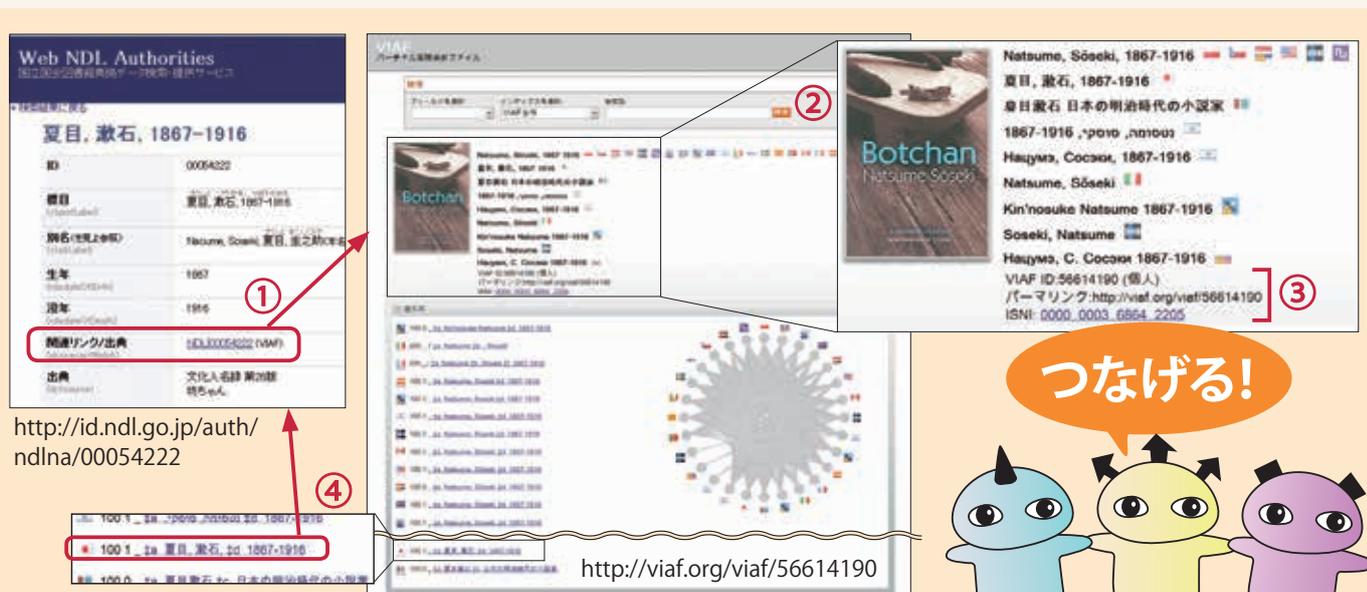


図2 Web NDLA (左) と VIAF (右) の典拠データ「夏目漱石」の表示画面 (2015年11月時点)

三郎 そうです。そしてこれから先、世界とのつながりはますます広がっていくでしょう。というのも、LODは図書館界にとどまらず、ウェブの世界のさまざまなデータと結びつきやすくなっているのです。ウェブのデータはあまりにも膨大で、いまはまだまだ、図書館の書誌データのように十分整理されておらず、ばらばらな状態ですね。

カーネ 図書館の検索システムでほしい本をすばやく探せるみたいに、ウェブでもほしい情報だけをすぐに見つけられたらいいのに。

三郎 そう、ばらばらのウェブのデータを整理するために、〈みわける〉〈まとめる〉の機能を持つ典拠データとつなげていくことも考えられそうですよね。ウェブのさまざまなデータを橋渡しし、整理していく手立てのひとつとして、LODであるWeb NDLAの典拠データがひろく使われることを期待しています。

カーネ これが三郎くんの得意技、〈つなげる〉なんだね！太郎くん、次郎くん、三郎くん、きみたち見た目はヘンテコだけど、中身はすごい妖精なんだワン！

先生 典拠三兄弟のおかげで、資料の著者名として用いる個人名の典拠データについて勉強できましたね。普通件名典拠（テーマを表すキーワード）は、また今度のお話（What's 書誌調整 ふたたび 第5回）に登場します。これとあわせて聞くと、今回の典拠の話がよりよくわかると思いますよ。

まとめ

先生 これからも、世の中のたくさんの著者が、たくさんの作品を著し続けることでしょう。だから、たくさんの作品の検索の手がかりとなる典拠データの機能、つまり太郎くんの得意技〈みわける〉、次郎くんの得意技〈まとめる〉は、ますます頼りになるはずですよ。こうして図書館で作った典拠データは、三郎君の得意技〈つなげる〉によって、図書館内外のさまざまなシステムやアプリケーション

で活用されるようになるでしょうから、ウェブの技術進展をしっかりと注視し、Web NDLAをそれに対応させていくことが大事になりますね³。

カーネ 三兄弟のみんな、ありがとう！先生もありがとうございました。典拠って大切なんだね。典拠データとWeb NDLAのこと、もっと知りたくなったワン！

典拠太郎・次郎・三郎 〈みわける・まとめる・つなげる〉
—Web NDLAがみなさんにもっと活用してもらえよう、ぼくたちは技を磨いていきます！

（収集書誌部収集・書誌調整課 木下 竜馬）



1 <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>

NDLホームページ>サービス概要>オンラインサービス一覧

2 VIAF (Virtual International Authority File, バーチャル国際典拠ファイル)とは、各国の国立図書館などから典拠データの提供を受け、同一の個人や団体などに対する典拠データを同定し相互にリンクさせ、ひとかたまりの典拠データとして提供するOCLC(Online Computer Library Center, Inc.の略。世界最大の図書館サービス組織)のサービス。2015年8月時点で世界各国の37機関がこれに参加しており、NDLは、東アジアで初めてVIAFに参加した。詳細は、本誌623(2013年2月)号pp.30-34「ことばの壁をこえる典拠:バーチャル国際典拠ファイル(VIAF)への参加」参照。

3 例えば、SPARQL(スパークル。SPARQL Protocol and RDF Query Languageの略)というウェブの世界の標準的なコンピュータ言語等、標準的な技術を使って、他のシステムからも自動的にデータを検索・取得できるようにしています。



『京城駅 [ほか]』 < 請求記号 YKD-16 >

図書別室の 資料から 第3回 絵はがき

シリーズの最終回では、絵はがきを取り上げます。当館では、約2,100件の絵はがきを所蔵しています。ほとんどは1980年代以降に刊行されたポストカードブックなどですが、戦前に刊行された絵はがき等も所蔵しています。こうした古い絵はがきは、名所旧跡の案内、神社や建物の落成記念、関東大震災や戦争など事件の記録を目的として作製されたものが多いようです。最近のものは、動植物、名画、風景、アニメなどのキャラクター、塗り絵などモチーフが多岐にわたって、趣味的な要素が強まります。これらはいずれもNDL-OPACの分類欄に分類記号「YKD」を入力して検索することができます。

上の写真の『京城駅 [ほか]』は、145枚の絵はがきがセットになった資料で、一部に見られる記念スタンプや消印から、明治30年代から昭和初期にかけて旧外地や国内で作製されたものと推測されます。タイトルの「ほか」とおり様々なものが混在し、日本統治時代の京城（現在のソウル）の景福宮など名所の写真はがき以外に、当時の時代背景を反映した戦争関連の絵はがきも含まれています。日露戦争勝利後に奉天（現在の瀋陽）で撮影された大山巖や乃木希典ら司令官の写真入りで「明治三十七八年戦役陸軍凱旋観兵式記念」の文字があるもの、「39-1-2」（明治39年？）の印のある野戦郵便局の写真が入ったものは、多色刷りの絵に写真を配したレイアウトになっています。

公共機関が作製した絵はがきもあります。大正時代に撮られた写真を使用したと思われる『神戸市立図書館繪葉書』には、当時の来館者の姿が生き生きと写し出され、出納所に詰めかける大人や子ども、大閲覧室で資料を読む人、食堂でコーヒーカップを片手に談笑する学生たちなど、皆心から図書館を楽しんでいる様子が伝わってきます。そのほかにも、事務室や書庫での業務風景、立派な館長室、ライトアップした図書館の夜景がレイアウトされたものもあります。5枚1組のコンパクトな写真はがきですが、港町の神戸らしいカモメなどの図柄を浮か出させた紙に、モノクローム、セピア色、青色と色を変えた写真を配するデザインの工夫が凝らされています。

『北海道農事試験場』は、8枚組の写真絵はがきで、業務の広報目的で作製されたようです。施設の外観とともに、農産製造室、化学実験室、

『北海道農事試験場』
 <請求記号 YKD-152>



養蚕室、温室などの研究施設で職員が熱心に働く姿がモノクロームで写し出されています。中には採光が強すぎて人がぼやけた写真もありますが、それはそれで味わいを感じられます。

『朝香宮家所蔵繪葉書帳』は、ポストカードアルバム10冊中に合計5,450枚の様々な絵はがきが収録されています。朝香宮家は、久邇宮朝彦親王の第8王子である鳩彦殿下が明治39年に創立し昭和22年まで続いた宮家です。鳩彦殿下は大正11年から14年にかけて軍事研究の目的で欧州に留学されていたことから、御自身で集められたものも多いと思われます。大半は欧州の観光地や名所旧跡を描いたものですが、カラフルな軍服を纏った欧州各国の兵隊の図版、各国の軍艦の写真、「ドイツ軍撤退後(1917)」とキャプションのあるフランス国内の瓦礫と化した建物、ドイツ語の表記付きで染色工場や塩山などでの労働風景を撮影したもの



『神戸市立図書館繪葉書』 <請求記号 YKD-146>

『朝香宮家所蔵絵葉書帳』 < 請求記号 YKD-115 >



[巻 8]



[巻 1]

など少々武骨な感じの絵はがきは、視察の過程で集めたものだったのでしょうか。馬がお好きだったのか、馬の絵はがきだけの1冊もあります。ルーブル美術館や大英博物館の収蔵品、教会など建築物の細部の装飾を写したのも目を引きま。帰国後に殿下が完成させたアールデコ様式の邸宅（現在の東京都庭園美術館）の建築や内装に影響を与えたかもしれないなどと想像が膨らみます。

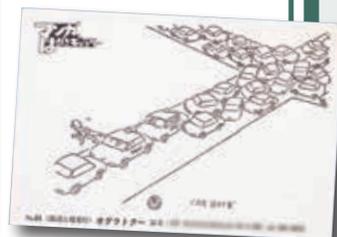
最後にご紹介する『マンガはがきギャラリー』は、漫画家のオグラトクー氏が描いた絵はがきです。昭和47年7月8日から平成元年9月1日に至る、当時の社会問題、イベント・事件、流行などを風刺した漫画が200枚の絵はがきに描かれ、アルバムに綴じられています。たとえば、遊園地で無理やり子どもの手を引く母親の姿を描いた「父親不在時代」、出前を届ける店員が押したドアブザーで事故が起き

た「チェルノブイリの発端」といった具合です。また、1枚1枚の絵を裏返すと、それぞれに東京都内の郵便局の風景印（風景入り消印）が押されているのも大きな特徴です。風景印は約150種類、一部重複もありますが、約20年間せつせと都内の郵便局を回って集めた努力には脱帽します。巻末に付属資料として目録があり、日付順に風景印と漫画の図案を対照することができます。風景印も美しく、郵便に興味がある方にとっても面白い資料ではないでしょうか。

これらの絵はがき資料は、東京本館の図書別室で利用することができます。散逸しやすい資料のため図書館間貸出しは行っていません。絵はがきは、それ自体が美しく、目で見て楽しめるものですが、コレクターや製作者の興味や関心も想像しながらご覧いただくと楽しみ方が増えるのではないのでしょうか。

（利用者サービス部図書館資料整備課

ひるた あきこ
蛭田 顕子）



『マンガはがきギャラリー』 < 請求記号 YKD-43 >



マスマク城塞



キング・アブドゥルアジーズ公共図書館

世界図書館紀行

リヤド(サウジアラビア)

山本 直樹

国際子ども図書館は「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」をモットーに、世界140以上の国と地域の児童書を所蔵している。しかし、欧米に比べ、東アジアを除くアジア・アフリカ地域の児童書の所蔵は、少ないと言わざるをえない。これは、選書に必要な情報が不足していることも関係している。2015年3月、児童書出版事情の調査およびリヤド国際ブックフェアへ参加するため、筆者は中東のサウジアラビアへ赴いた。



キング・ファハド国立図書館



リヤド国際ブックフェア



サウジアラビアの首都リヤドへ

サウジアラビアはアラビア半島の面積の大半を占める世界有数の産油国であり、イスラム教の二大聖地であるメッカとメディナを有する、人口約3千万の大国である。しかし海外からの旅行者の受け入れは盛んでなく、メッカ巡礼や出張、海外赴任、出稼ぎを目的とした渡航者が大半である。

サウジアラビアという国名は、この国を統治するサウード家に基づくものである。初代国王アブドゥルアジーズ・ビン・アブドゥラフマーン・アール・サウード（1876-1953）が1902年、ラシード家から故地リヤドを奪還したのち1932年に建国し、版図をアラビア半島の大半に拡大した。リヤドは砂漠の中にあるオアシス都市で、建国以降人口の流入が進み、現在は約700万人が暮らしている。広大な土地を活かした開発が現在もお続けられている。街は非常に大きいものの、電車やバスといった公共交通機関がきわめて少ない。そのため人々の移動は自家用車やタクシーが主流であり、一日を通じて道路の渋滞が激しい。なお、女性は自動車の運転が認められていないため、地域の女性同士で運転手を雇い、バスや乗用車をチャーターして買い物に行くこともあるという。現在はリヤド・メトロが建設中であり、今後の街の変化が期待される。

街は広い道路が張り巡らされ、近代的な建物が並んでいる。年間を通じて暑いせいか、昼間は街に人通りは少ないが、夜になると旧市街のマスク城塞近くにあるディラ・スーク（市場）（写真1）などでは、生活感あふれる風景を見ることができる。

街を歩いているアラブ人はみな、男性はトーブと呼ばれる白い服、女性はアバヤやヒジャブなどの真っ黒な服装、といった伝統的

な衣装を身にまとっている。

一日5回ある礼拝の時刻になると、街中にアザーンと呼ばれる礼拝を呼びかける声が響き渡り、礼拝が終わるまでの間、公共施設や商店など、あらゆる施設のシャッターが下りてしまう。もちろん図書館も同様である。

さて、筆者は市内のスーパーマーケットで買い物をしていたところ、礼拝の時間が始まりシャッターが下りてしまい、店舗の中に閉じ込められてしまった。呆然と店内をうろろしていると、様々な発見がある。生鮮食品や惣菜の種類は非常に多いが、豚肉や酒類は一切置いていない。代わりにサウジシャンパンと呼ばれるノンアルコール飲料がずらりと並んでいた（写真2）。生活用品売場では香水の代わりにアルコール分を含まない香油が販売されており、男女問わず現地の人々が愛用している。

サウジアラビアはイスラム教スンナ派の中でも、特に保守的で厳格な教義を国教としているため、他の中東諸国に比べてもイスラム色が強い。



サウジアラビアの図書館と子どもの本

イスラム教圏のレストランの多くは、飲食エリアが男性用と家族用に分かれており（さらにヒジャブを外して食事ができる女性専用エリアがあるところもある）、フードコートでの会計も男性と女性とでカウンターが分かれていたりする。図書館もまた、閲覧室が男女別になっているか、時間や曜日で利用者を男女別に区切っているところが多い（ちなみに国立国会図書館の前身である帝国図書館もまた、戦前は閲覧室が男女別に分かれていた）。

児童書にもイスラム教に基づいた文化の特徴が表れており、偶像崇拝を禁じる教えにしたがい、人物が一切登場しない絵本や、顔の部分が隠された絵本が出版されていたりする。このような絵本では、木陰から会話の吹き出しだけが描かれる、あるいは体の一部だけが描かれるなど、他のイスラム圏でもあまり見られない独特の表現手法が用いられている。内容もまた、宗教的価値観に基づいた道徳を教えるものなど、ストーリー性よりも教育性を重視したものが多くみられる。

そのような特殊な事情を有するサウジアラビアの図書館の訪問は容易ではなく、今回は在サウジアラビア日本大使館職員の方々のご協力を仰ぐこととなった。

サウジアラビアの子どもたちや、その保護者が図書館に抱く印象は？という疑問を抱いていた筆者であるが、男性がよその女性に話しかけることをタブーとするサウジアラビアでは、市民に直接インタビューするのは避けるべきである。そこで大使館職員の夫人をつうじて、現地の何組かの親子に聞いていただいたところ、「そもそも図書館を利用したことがない」「小学校の図書室は鍵がかかっており、気軽には利用できない」「(女性は車を運転できないので) 子どもを図書館まで送り

迎えてできない」「男の子は図書館で本など読まず、外でサッカーをするべきものです」といった、残念な答えが返ってきた。中には「図書館と本屋さんとの区別がつかない」といった回答まであった。これはアラビア語では図書館も書店も同じ「مكتبة (マクタバ)」という単語であるという、言語的な事情も背景にあるのかもしれない。

しかし、そんなサウジアラビアの図書館も、汚名を返上すべく、さまざまな新たな取り組みを行っているようである。

キング・アブドゥルアジーズ公共図書館

1987年に開館したキング・アブドゥルアジーズ公共図書館は、リヤド市内有数の大きな図書館である。2つの建物からなっており、ひとつは男性用の本館、もうひとつは女性と子ども用の別館である。2館合わせての蔵書数は約160万であり、それ以外に文書類、コイン、古地図なども所蔵している。

男性用の本館は、市内中心部にあるサウード王家の住まいの一つに隣接した、新しい建物である(写真3)。図書館の運営もまた、王族の財団にゆだねられている。日中の訪問だったせいか、利用者はまばらであったが、夕方になると仕事や学校帰りの利用者でにぎわうとのことである(写真4)。多くの資料は地下の書庫に収められている(写真5)。

一方で、女性と子ども向けの別館は、本館から車で30分ほど離れたムラッバー地区にある(写真6-10)。子ども向けの図書館では、女性スタッフによる読み聞かせや映画上映会などの各種イベントが行われており、年間のべ2万人以上の子どもが来館するという。

キング・アブドゥルアジーズ公共図書館はアラブ世界で広く出回っているアラビア語資料の総合目録AUC (Arabic Union Catalog)



写真6-10：
在サウジアラビア日本大使館 安藤奏氏提供



の編集に積極的に取り組んでいるだけでなく、出版事業も行っており、百科事典や児童書のほか、海外で出版されたサウジアラビア関連資料の翻訳書を出版している（前頁写真11）。児童書に関しては、会員制の配本も行っており、子どもたちに人気であるようだ。

本館の外には移動図書館車（前頁写真12）が停まっていた。この車両は2階建てバスを改造した大型のもので、車内には書棚だけでなく、閲覧用のテーブルや椅子、パソコンまで設置された豪華仕様である。来館することが困難な、遠方の住民へのサービスである。

ほかにも、リヤドのキング・ハーリド国際空港の待合ロビーに図書館分室を設けて旅行者への便宜を図るなど、新しい取り組みが計画されているとのことである。

キング・ファハド国立図書館

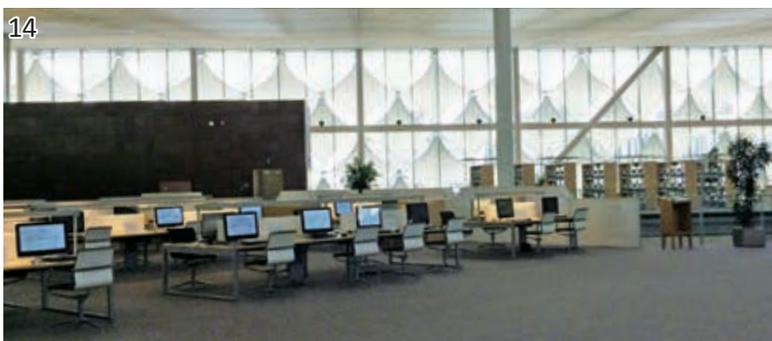
多くの高級ブランドショップがテナントに入るショッピングモールがあるファイサリーヤ・タワー（写真13）は、キングダム・センターとともにリヤドを代表する高層ビルであり、リヤドのランドマークとして親しまれている。その近くにキング・ファハド国立図書館がある。古い図書館の建物を外からまると覆う形で増築がなされており、白く波打つ外壁がひととき目立つ。

同図書館は納本図書館として、サウジアラビア国内の出版物を網羅的に収集しているのみならず、ISBNやISSNの付与といった、国内の出版物の管理を集中的に行っている。同国で出版される予定の本は、事前にすべてここに集まるといふ。納本図書館という性質上、約200万冊の所蔵資料のほとんどがアラビア

13



14



15



16



17





語である。

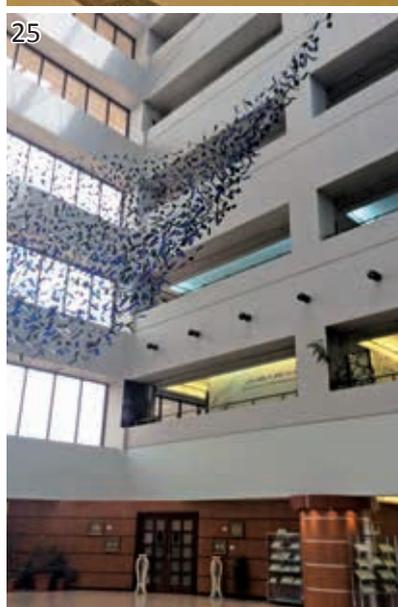
ゆとりのある館内は、一部が吹き抜けとなっており、すりガラスに囲まれた女性専用閲覧室など、各フロアの閲覧スペースの様子をうかがうことができる。閉架式でほとんどの資料は書庫にあるが、多くの参考図書が並んでおり、カウンターでレファレンスを受けることができる(写真14-16)。さらに、非来館者向けにメールでのレファレンスも行っているが、利用者のほとんどはアラブ圏内とのことである。

同図書館は公文書館としての機能も有しており、19世紀後半以降の王族や政府の文書類も約300万点にわたり所蔵している(写真17)。今後は新たに博物館を設け、貴重書や文書類を展示する計画がある。また、新たに開始する予定の児童サービスについても、準備を進めているとのことである。

キング・サウード大学 キング・サルマン図書館

市内の北西部に約900ヘクタールという巨大な敷地を有するキング・サウード大学は、1957年に設立されたサウジアラビア最大規模の大学であり、世界各地からの留学生も多い。大学の門から図書館までは2 km以上あり、人もまばらな砂地の中をひたすら車で走る。とても大学のキャンパス内とは思えない光景である(写真18)。

2015年2月、サルマン国王の即位にともない、図書館の名称も、プリンス・サルマン図書館から現在の名称に変わった。入口の案内板には開館時間と並んで男女別に利用できる日時が書かれている(写真19)。大学内には13の図書館があり、所蔵資料はあわせて約200万冊、6,400席あまりの閲覧席を有し、年間利用者数はのべ8万人とのことである。キング・サルマン図書館(写真20-25)は、その



中央館にあたる。なお学生以外の一般市民にも開放されており、雑誌や新聞が開架されているエリアは、多くの利用者でにぎわっていた。グループ閲覧室や個人用レンタルスペース（有料）なども用意されている。

館内はフロアごとに英語とアラビア語の資料が分かれて排架されており、アラブ圏にとどまらず、欧米の学術文献もある。日本語資料は日本語学科の図書室に別置されているという。古典籍資料の保存や修復も専門スタッフが行っており（前頁写真26,27）、脱酸処理や修復技法についての説明を伺った。

（番外編）リヤド国際ブックフェア

中東の出版事情は不明な点が多いうえ、市中の書店で必要な本が手に入るとは限らない。リヤド国際ブックフェアは、28の国と地域から476の出版社・書店・図書館等が出展する、サウジアラビア最大の出版イベントであり、同国をはじめ中東諸国の出版物が一堂に会する貴重な機会である。会場となる国際コンベンションセンターは市内のワハー地区にある。

場内にはサイン会場やイベント会場、飲食スペースや臨時郵便局だけでなく、礼拝用の絨毯が敷き詰められたエリアもある。出版業界のビジネスマンから家族連れに至るまで、幅広い層の入場者でにぎわっている（写真28-30）。

近隣諸国以外からの出展は少なかった反面、日本ではほとんど出回っていない、オマーン、アルジェリア、クウェートなどのアラブ諸国の出版社も出展しており、貴重な機会であった。ただし、本に価格が表示されていないものが多く、その都度、店員と値段交渉しなければならない。

アラビア語の本以外には、英語の書籍も多く流通している。英語学習熱が高いという理由もあるが、インドやフィリピンといった英語圏からビジネスや出稼ぎで滞在している人口が多いことも関係しているだろう。

おわりに

サウジアラビアは、近隣のカタールやUAE（アラブ首長国連邦）と同様、国内のインフラ整備が進められている中で、図書館のあり方もまた、大きく変わっていくことが期待される。

今回の出張では、在サウジアラビア日本大使館の安藤強士氏および同夫人である安藤奏氏（現プリンス・スルタン大学非常勤講師、元在シリア大使館広報文化アタッシェ）、訪問先の各図書館を案内してくださったスタッフの方々をはじめ、多くの方のお世話になった。この場を借りて御礼申し上げる。

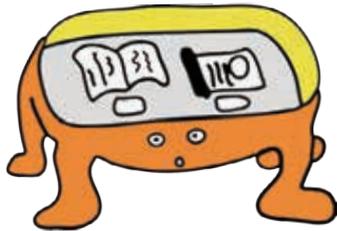
（やまもと なおき

国際子ども図書館資料情報課）



本を展示してみよう ～平成27年度子ども霞が関見学デーイベントより～

こんにちは。ボク、展示ケースの展示郎。



国立国会図書館では、所蔵している資料を使って定期的に展示会を行なっているてん。

夏には小中学生を対象とした子ども霞が関見学デーというイベントがあって、今年は、国立国会図書館の書庫見学はもちろん、自分の好きな本を展示してみる体験イベント、題して「本を展示してみよう」も行なったてん。そのイベントの様子、職員さんに紹介してもらってん、てんてん！

○その1 展示したい資料を選ぶ

参加してくれた子どもたちには、お気に入りの本を自宅から持ってきてもらいました。絵本から科学事典まで様々なジャンルの本があって驚きました。

○その2 解題パネル（キャプション）を作る

展示会では、展示品を紹介するパネルが置いてありますね。あれを解題パネルといいます。今回は「タイトル」「著者」「出版年」のほかに、「その本のよいところ」を子どもたちに考えて書いてもらいました。色ペンでカラフルに書いてくれる子もいたり、難しい漢字をがんばって書い

てくれる子もいたり。みんな一生懸命にととても丁寧な字で書いてくれましたよ。

○その3 本を透明テープで台に固定する

持ってきてくれる本の大きさをあらかじめ聞いておいたので、その大きさに合わせて、本が自然に開くように下から支える台を作っておきました。その台に透明テープで慎重に本を固定します。この作業がなかなか難しいのです。子どもよりも保護者の方が熱心に作業している場面も（？）

○その4 展示ケースに並べて「はいポーズ」

実際の展示みたいに、どうしたら本と解題パネルが見やすいか考えながら、そろりそろりと展示ケースにセットして出来上がり。記念写真もパチリ。帰るときに、「また来たい！」と言ってくれた子も。

展示がないときは、いつも展示室でひっそり。本好きな子と交流できてとても嬉しかったてん。

（サービス企画課展示企画係 展示郎）



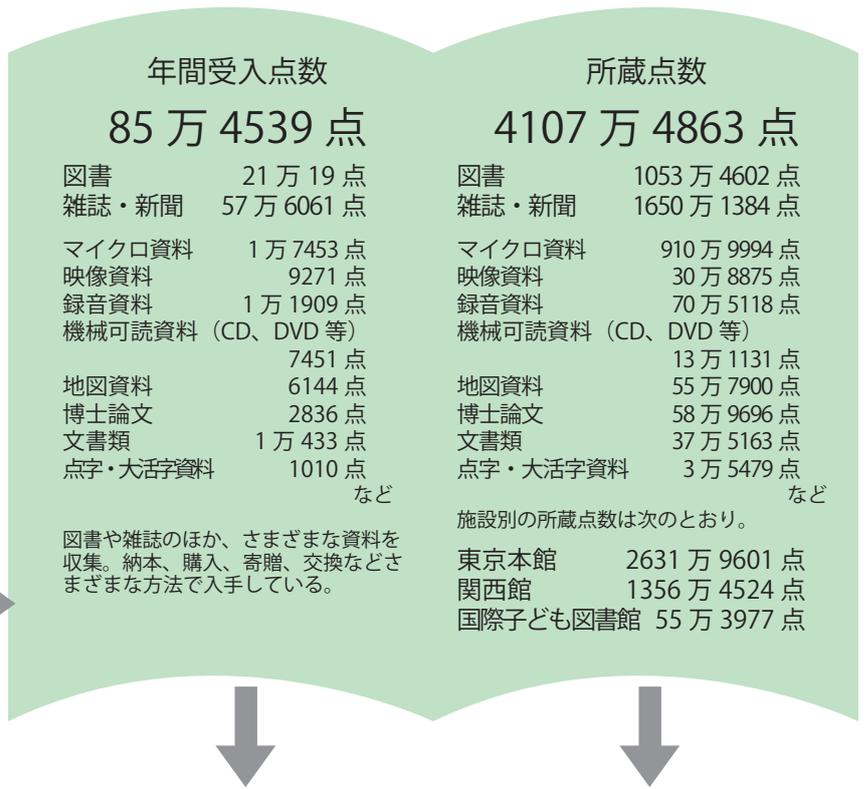
数字で見る国立国会図書館 『国立国会図書館年報 平成26年度』から



『国立国会図書館年報 平成26年度』

『国立国会図書館年報 平成26年度』をもとに、国立国会図書館の業務、サービス、組織に関するおもな数字を抜粋しました。 (総務部総務課)

※数字は平成27年3月31日現在



資料収集のための費用
約23億3000万円
うち、納入出版物代償金
約3億9000万円

館全体の予算・決算
歳出予算現額
約218億6500万円
決算額
約192億3100万円
前年度からの繰越額約12億2500万円
次年度への繰越額約21億1600万円

職員数 889人
男性 50%
女性 50%
専門調査員・管理職のうち女性の割合
約31%

書誌データ作成 60万6673件
 図書 16万8623件
 雑誌・新聞 3756件
(データ更新(改題など) 1万3381件)
 非図書資料 5万1759件
 雑誌記事索引 38万2535件
 書名、著者名、所在情報などの書誌データ、日本の出版物の記録である全国書誌を作成し、ホームページを通じて提供している。

メディア変換
デジタル化
3855点分
デジタル化等により媒体を変換し、原資料の代替として利用することにより、原資料の劣化を防ぐ。

	建物延べ面積 ²	書庫面積 ²	閲覧室面積 ²
東京本館	21万 5166m ²	10万 4106m ²	2万 4837m ²
国会分館	14万 7853m ²	7万 8046m ²	1万 8983m ²
関西館	1331m ²	609m ²	562m ²
国際子ども図書館	59311m ²	2万 3926m ²	4265m ²
	6671m ²	1525m ²	1027m ²

国会へのサービス 依頼調査回答 4万1167件

国会議員等からの依頼に基づき、国政課題や内外の諸事情に関する調査、法案の分析・評価などを行っている。

行政・司法支部図書館へのサービス 貸出 8655点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に支部図書館が設置されている。この図書館ネットワークをもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

一般へのサービス 来館者 69万4209人

東京本館 53万684人
関西館 6万1157人
国際子ども図書館 10万2368人

開館日数は東京本館・関西館は278日、国際子ども図書館は284日。

閲覧 224万7755点

東京本館 212万4406点
関西館 10万3525点
国際子ども図書館 1万9824点

来館して申し込む閲覧サービス。

レファレンス・サービス 92万6608件

東京本館 83万956件
関西館 8万501件
国際子ども図書館 1万5151件

口頭、文書、電話により回答する。

見学・参観 8399人

東京本館 4123人
関西館 1463人
国際子ども図書館 2813人

見学の申し込みは本誌表紙裏参照。

来館複写申込 122万8492件

東京本館 112万7075件
関西館 9万6676件
国際子ども図書館 4741件

来館して申し込む複写サービス。

図書館等への貸出 2万2232点

東京本館 6045点
関西館 2793点
国際子ども図書館 1万3394点

図書館への貸出し、小中学生向けの学校図書館セット貸出し、展示会に出品するための貸出しがある。

遠隔複写申込 25万7497件

東京本館 12万6089件
関西館 12万9910件
国際子ども図書館 1498件

来館せずに、ホームページ等を通じて申し込む複写サービス。

デジタル化資料の提供数

インターネット 49万6318点
館内限定 201万3474点
図書館送信 約138万点

江戸期以前の和漢書および1968年までに刊行された図書等の本文デジタル画像。

ホームページへのアクセス 2122万5247件

1日平均5万8151件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等の各種データベース、調べものに役立つ情報などが利用できる。

国立国会図書館サーチで 統合検索できる書誌データ

8343万4898件

99種類のデータベース

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された画像・音声等の様々な形態の情報を検索。

『国立国会図書館年報』は、ホームページでもご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ
>刊行物>国立国会図書館年報
<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

お答えします、 図書館送信の ギモンあれこれ

Part 1



国立国会図書館がデジタル化した資料のうち絶版等の理由で入手が困難な資料を、全国の公共図書館、大学図書館等の館内で利用できる「図書館向けデジタル化資料送信サービス」(図書館送信)。平成26年1月21日の開始から2年が経過し、参加館も600館を超え全都道府県に達しましたが、まだまだ、多くのお問い合わせをいただいています。

図書館送信についてさらに理解を深めていただけるよう、こうしたお問い合わせ、「ギモン」の数々に2回シリーズでお答えします。

図書館員の
みなさまへ

サービス全般についての ギモン

Q1. どのようなサービスですか？

当館は200万点以上の所蔵資料をデジタル化し、国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) で公開しています。しかし、インターネットを通じてだれでも自由に本文の画像が見られるものは、著作権処理が終了した約49万点の資料に限られています。

図書館向けデジタル化資料送信サービス(図書館送信)は、インターネットで公開していないデジタル化資料の多くを、公共図書館、大学図書館等の館内で利用することができるサービスです。利用を希望する図書館は、当館に申請を行い、当館からの承認を受けていただく必要があります。申請時に「閲覧のみ」「閲覧および複写」のいずれを利用者に提供するかを選択していただけます。

Q2. どのような資料が利用できますか？

インターネットで公開していないデジタル化資料のうち、絶版等の理由で原資料の入手が困難となっているものが送信対象です。平成27年12月現在、右の表に示した約137万点の資料が利用できます。

実際に利用されている資料を少し紹介します。図書は、歴史・地理に関する資料や文学作品が多く利用されています。特に公共図書館では、『百年の大阪』(大阪読売新聞社編、浪速社、1966-1967)、『熊本人物鉅脈』(熊本日日新聞社、1963)など、地域の

歴史や人物の調査に使える資料の利用が多いようです。

雑誌の利用は多岐に渡っています。利用が多いものとして、明治中期～後期の『女学雑誌』、大正期～昭和初期の『三越』など、当時の文化を研究する目的で利用されていると思われるものがあります。また、比較的新しい年代の雑誌では、『聴覚研究会資料』、『月刊建設』、『軍事研究』(いずれも、当館が所蔵する巻号は平成12年刊行分までデジタル化済)などがよく利用されており、研究論文・記事を入手する目的で使われていると考えられます。『國學院雑誌』、『九州大学理学部研究報告』など、大学が発行した学術雑誌(紀要など)も多く利用されています。

なお、歴史的音源の利用は、このサービスには含まれていません。「歴史的音源の公立図書館等への配信提供に関するページ」(<http://dl.ndl.go.jp/ja/rekion4Lib.html>)で、公立図書館等への配信提供についてご案内しています。

Q3. どのような利用者にサービスを提供できますか？

各図書館の登録利用者の方にサー

ビスを提供できます。利用者の居住地、勤務地、所属などに関する条件は、各図書館の利用規則などで定められた範囲となります。例えば、大学図書館において、大学に所属していない方も登録利用者になれる規則を設けている場合は、学外の登録利用者の方にもこのサービスを提供することができます。

Q4. 図書館送信の参加館になることによって、どのようなメリットがありますか？

各図書館の既存の蔵書に加え、当館の蔵書のうち約137万点を利用者に提供できるようになります。これらは現在入手困難な資料であり、地域資料、研究紀要なども多く含まれているため、各図書館の蔵書を補う形で、情報提供サービスを強化することができます。

図書館送信の対象資料(送信資料)の利用には、郵送にかかる時間・費用や貸出期間の制約がありませんので、利用者の求めに応じて、すぐにいつでも提供することができます。当館が図書館間貸出しサービスの対象としない資料(和雑誌、発行年代の古い和図書など)も提供できます。

種別		インターネット公開	図書館送信	国立国会図書館内限定	合計
図書	昭和43年までに受け入れた図書	35万点	50万点	5万点	90万点
古典籍	貴重書、準貴重書、江戸期以前の和漢書等	7万点	2万点	—	9万点
雑誌	平成12年までに発行された雑誌	0.9万点	73万点	50万点	123.5万点
博士論文	平成3～12年度に送付を受けた論文	1.5万点	12万点	0.5万点	14万点
その他	官報、憲政資料、日本占領期資料等	5万点	—	7万点	12万点
合計		49万点	137万点	62.5万点	248.5万点

デジタル化資料提供状況(平成27年12月現在) ※ 概数のため、合計が合わない場合があります。

申請手続きに関するギモン

Q5. サービス導入を検討しています。申請書類提出から承認までの期間および手続の流れを教えてください。

申請書類提出から承認までの期間は、概ね1か月から1か月半です。当館で申請書類を確認した後、各図書館で使用予定端末を使って送信資料の画像が閲覧できるか、印刷ボタンは表示されるかという確認作業を行っていただきます。その確認作業を経て、承認文書の発送という流れになります。

Q6. サービス導入の準備に当たって課題になることはどのようなことがありますか？

利用環境を満たす端末を用意できない（Q7～9を参照）、グローバルIPアドレスが固定ではない（Q10を参照）、送信を受けた資料の複写に関する規定を設けるため、規則類を改正または新設する必要がある（Q13を参照）といったことが、主な課題となっています。

端末や固定のグローバルIPアドレスについては、図書館システムや

ネットワークの契約更新のタイミングで準備したという図書館が多いようです。また複写に関する規定については、既存の規則類を当館にお送りいただければ、ご相談に応じます（Q13を参照）。

Q7. 必要な端末要件を教えてください。

原則として、利用者の方が使用する閲覧用端末と、職員の方が使用する管理用端末が必要となります。ただし複写サービスを行わない参加館の場合、閲覧用端末を管理用端末としても用いることができます。

端末の要件は下の表のとおりです。

Q8. 閲覧用端末と管理用端末は、図書館送信の専用端末でなければいけませんか？

閲覧用端末と管理用端末、それぞれの要件を満たしていれば、図書館送信の専用でなくてもかまいません。なお、複写サービスを希望する場合は、閲覧用端末と管理用端末（兼複写用）を少なくとも一台ずつ別に用意してください。

Q9. 必要なバージョンのブラウザを備えた端末が用意できません。古いバージョンのブラウザでは参加できませんか？

古いバージョンのブラウザの場合、送信資料の画像が正常に閲覧できない場合や、セキュリティの不備による不正利用のおそれがありますので、閲覧用端末、管理用端末とも、それぞれの要件を満たしたブラウザをご用意ください。

Q10. 固定のグローバルIPアドレスとはどのようなものですか？

図書館送信の利用は参加館に限定されますが、その確認方法として、グローバルIPアドレスを用いています。グローバルIPアドレスとは、インターネット上のコンピュータなどの機器に対して一意に割り当てられる住所のようなものです。当館へのアクセスのたびにこれを識別して権限を確認しているため、一つまたは一定の範囲内に固定されている必要があります。図書館およびその上位組織（県庁、市役所、大学など）以外の方に同じアドレスが割り当てられる可能性がある場合は、そのアドレスを利用してのサービス参加はできませんのでご注意ください。なお、組織のネットワーク内でのみ使用されるプライベートIPアドレス（アドレスの冒頭が10.～、172.16.～から172.31.～まで、192.168.～のもの）の申請は不要です。

端末の種類	使用する人	用途	OSの要件	ブラウザの要件	PDF閲覧ソフトの要件
閲覧用	登録利用者	画像の閲覧利用	Windows Vista以降 (Windows 7を推奨) 又はMac OS X 10.6以降	Internet Explorer 10以降、 Firefox最新版、Google Chrome最新版のいずれか	
管理用	図書館職員	複写物の作成、 統計取得	Windows Vista以降 又はMac OS X 10.6以降	Internet Explorer 7以降、 Firefox最新版、Google Chrome最新版のいずれか	Adobe Reader 9以降

端末の要件 その他詳しくは「国立国会図書館図書館協力ハンドブック 第7章：デジタル化資料送信サービス」(http://www.ndl.go.jp/jp/library/handbook/handbook/chapter_7.pdf) をご覧ください。

Q11. 申請書類の内容を事前に確認してもらうことは可能ですか？

可能です。お問い合わせ窓口のメールアドレス (digi-soshin@ndl.go.jp) へ提出予定書類を添付してお送りください。担当者が内容を確認の上、回答いたします。申請書類提出後の承認手続をスムーズに進めるためにも、事前確認をお勧めいたします。

Q12. 図書館法第4条第1項の司書又はこれに相当する職員が配置されていることを示す書類とは、どのような書類ですか？

例えば、次のような書類です。

- ・公益社団法人日本図書館協会 図書館調査票の写し
- ・学術情報基盤実態調査<大学図書

館編>調査票の写し

- ・司書資格取得者が配置されていることを明記した条例、学則、規則等の全文
- ・図書館法第4条第1項の司書又はこれに相当する職員が配置されていることを明記した機関の長等による文書

Q13. 送信を受けた資料の複写に関する規定として、どのようなものを提出すればよいですか？

利用規則・運営規則・管理規則等に「複写に関する規定」があり、「複写作業は図書館側が行うこと」が明確に読み取れる内容が記載されている場合は、その利用規則・運営規則・管理規則等を提出してください。「複

写に関する規定」がない場合や「複写作業は図書館側が行うこと」が明確に読み取れる内容でない場合は、従来の規定を改正していただくか、別途図書館送信に係るサービス実施要件等を定めていただくことになります。詳しくはお問い合わせ窓口のメールアドレスまでお尋ねください。

デジタル化資料送信サービス
お問い合わせ窓口
(関西館文献提供課 複写貸出係)
〒619-0287
京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3
TEL : (0774) 98-1330
E-mail : digi-soshin@ndl.go.jp

参加館のみなさまへ ~もっと活用できます！

○レファレンスサービスでの利用

参加館では、利用者自身がデジタル化資料の利用を希望する場合だけでなく、レファレンスサービスを通じて、図書館職員がデジタル化資料の利用を案内している事例が多く見られます。以下にその一部を紹介します。

質問：明治28年に建てられた京都市役所の写真が見たい。

回答：『京都府写真帖』（京都府、1908）に写真が掲載されています。

質問：昭和初期の大阪中心地における歩行者の交通量を知りたい。

回答：以下の記事に、昭和12年10月25日に御堂筋と堺筋で、人、荷車、自転車等の交通量調査を行った結果が掲載されています。

青谷熊壽「大阪市中心部の道路交通量を一瞥する（一）」『地理教育』28巻1

号（1938.4）

青谷熊壽「大阪市中心部の道路交通量を一瞥する（二）」『地理教育』28巻2号（1938.5）

○さらなる利用促進のために

一部の参加館からは、利用を希望する利用者が少ないという声も聞かれます。このような場合、図書館送信でどのような資料が使えるのかを具体的に示すことが有効と思われれます。利用者の関心が高く、利用が多いと見込まれる分野や資料群をピックアップして紹介することをお勧めします。

例1) 地域をテーマにした図書を紹介する。

秋田県の歴史等を主題とした次のような図書が利用できます。

歴史：『秋田県史』（秋田県、1960-1966）、『能代市史年表』（能代市、

1965）

地理：『秋田の山河』（秋田文化出版社 秋田文化編集部、1960）

人物：『秋田の先覚：近代秋田をつちかした人びと』（秋田県、1968-1971）

統計：『秋田農林水産統計年報・昭和34年-昭和45年』、『秋田県衛生統計年鑑・昭和27-昭和45年』…など

例2) 特定の学術分野を扱った雑誌を紹介する。

次のような医学分野の雑誌（2000年以前刊行のもの）が利用できます。

『日本災害医学会会誌』（日本災害医学会）

『大阪大学医学雑誌』（大阪大学医学会）

『日赤医学』（日本赤十字社医学会）

『よぼういがく』（日本予防医学協会）

『看護の研究』（全国自治体病院協議会）

『宇宙航空環境医学』（日本宇宙航空環境医学会）…など

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

銀行券にみる近現代世界の国々

富田昌宏 著 印刷朝陽会 刊
2013.6 215p 21cm

<請求記号 DF3-L3>

銀行券、いわゆるお札は、あらゆる経済活動に不可欠なものである。しかし、あまりに日常生活に溶け込んでいるため、単なる記号として消費されるばかりで、モノとして注目されることは少ない。

本書では、20世紀、主として第二次世界大戦後に世界各国で発行され流通してきた銀行券や政府紙幣にまつわる逸話が国、地域別に紹介されているが、開発途上国により多くの紙幅が割かれている。平和で秩序ある豊かな国々では、素材そのものの価値に乏しい銀行券等（金貨や銀貨と異なり、原材料は紙やポリマーなどである）でも通貨として安定的に流通するが、それゆえに、銀行券等を頻繁に変更する必要に乏しい。逆説的だが、政治や社会が混迷する国でこそ、激動する政治体制や社会情勢が銀行券等にも如実に投影され、物語が生み出されるのである。

この観点で本書を読むと、全体を通底する三つのテーマを見出すことができる。一つはお札の顔である肖像の変遷である。中華人民共和国に関するニュース等では毛沢東の肖像が描かれた100元銀行券がしばしば登場するが、建国後、毛沢東の肖像が初めて券面に描かれたのは、文化大革命の終焉から10年余りを経た1988年だというのは意外である（第3章）。リビアのカダフィ大佐（第6章）などの独裁者が銀行券等にいかに描かれたかも興味深い。建国の指導者である金日成を一貫して銀行券等に描いてきた北朝鮮で、お札の顔になった2人の女優ホ

ン・ヨンヒ [홍영희] 氏とヤン・ヘリョン [양혜련] 氏（第2章）なども印象的である。

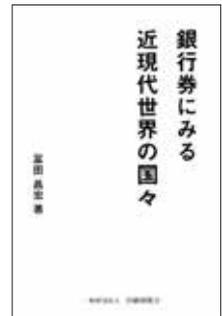
二つ目のテーマはデノミネーションなど、既存通貨の無効化である。未発行ではあるものの、第二次世界大戦後では世界で最も桁数が大きい

紙幣であるジンバブエの100兆ドル銀行券（第6章）などはわが国でも一部で話題になったが、1985年と1987年の廃貨にともなって、15、35、45、75、90チャットという中途半端な額面の銀行券が発行されたビルマ連邦社会主義共和国の特殊性（第5章）などはあまり知られていないのではないだろうか。

もう一つのテーマは、地域の特殊性から発行されてきた地域通貨である。国共内戦が色濃く反映された金門島などの台湾海峡島嶼の通貨（第4章）のように、それらの地域が敵国に占領された場合に、本国での貨幣の流通に影響が及ぶのを防ぐために発行されたものもあれば、英国のチャンネル諸島（第7章）のように、平和で安定した地域であっても、伝統や歴史的経緯から発行されているものもある。

銀行券等には、それぞれの国や地域の政治や歴史、文化が色濃く映し出されており、紙でできた記念碑と言っても過言ではない。本書で紹介された銀行券等には、数百円から数千円程度で購入できるものもあり、上記のジンバブエ未発行100兆ドル銀行券などは、筆者も所有している。これらの銀行券等を手元において、そこに封じ込められた歴史の一断片に思いを馳せるのも一興だろう。

（電子情報部システム基盤課 富田 穰治）



標題紙

法規の制定

【規則第6号】 科学技術情報整備審議会規則の一部を改正する規則

(平成27年11月2日制定)

科学技術情報整備審議会の委員について、再委嘱が可能であることを明確にするとともに、委員の任期が満了した場合にも、後任者が委嘱されるまで引き続きその職務を行うものとした。平成27年11月2日から施行された。

この法規による改正後の科学技術情報整備審議会規則（昭和36年国立国会図書館規則第3号）は、国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws/index.html>）に掲載している。

平成27年度 国立国会図書館長と 大学図書館長との 懇談会



平成27年11月6日、東京本館において標記の懇談会を実施した。これは、国立国会図書館が、国公立大学図書館協力委員会委員館の図書館長および関係機関の代表者を招いて毎年行っているものである。

今年は、当館による「国立国会図書館の一年の動き及び大学図書館との連絡会活動報告」の後、「デジタル資料の収集・保存・提供」をテーマとした報告が行われた。電子情報部長からは「国立国会図書館のデジタル資料—収集、保存、提供の取組—」、赤木完爾慶應義塾大学メディアセンター所長からは「デジタル資料に図書館はどう向き合うか」と題した報告があった。その後、各大学の機関リポジトリにおける収集・保存の範囲に関し、論文の裏付けとなる研究データの保存をどう考えるか、また、機関リポジトリを通じたデジタル資料の利活用が進む中での紙資料の保存との両立等について質疑、意見交換が行われた。



お知らせ

■ 電子書籍・電子雑誌 収集実証実験事業を 開始しました

国立国会図書館では、わが国の電子書籍・電子雑誌（有償で頒布されているもの※）を貴重な文化財として収集・保存し、将来にわたって利用できる制度の在り方を検討するため、実証実験を実施します。

この実証実験では、出版社・作者の御協力により提供された市販の電子書籍・電子雑誌を、東京本館および関西館に設置されている利用者用端末のうち、閲覧用アプリケーションを導入した計20台で、閲覧することができます。

今回の実証実験は、主に次の2つの目的で行います。

- (1) 電子書籍・電子雑誌の収集及び長期的な保管・利用の技術的検証を行うこと。
- (2) 国立国会図書館内で電子書籍・電子雑誌を閲覧に供することによる民間の電子書籍・電子雑誌ビジネスへの影響の検証や納入時の費用の調査分析を行うこと。

詳細は、次の電子書籍・電子雑誌収集実証実験事業のページをご覧ください。

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit/dbdemo.html>

※インターネット上で無償で提供されている電子書籍・電子雑誌は、国立国会図書館で制度的に収集しています。

○問合せ先

国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課 納本制度係

電話 03(3581)2331(代表)

お知らせ

■ 国際政策セミナー 「グローバル化の中の 議会の役割—欧州の経験 から日本への示唆」



ジャン=エリック・ジッケル氏



昨年の国際政策セミナーの様子

調査及び立法考査局は、「グローバル化の中の議会の役割—欧州の経験から日本への示唆」をテーマに国際政策セミナーを開催します。

基調講演者は、憲法および議会法が専門のフランスの有力な公法学者であるジャン=エリック・ジッケル氏です。近年、グローバル化の進展により、国際的な企業や市場、規範が国内の法制度に与える影響が強まっています。こうした状況の下、民主主義を支える議会は、どのような役割を果たすべきか、欧州の経験に基づいた日本への示唆をお話しいたします。講演後は、憲法、ヨーロッパ法の専門家が加わり、パネルディスカッションを行います。皆様のご参加をお待ちしております。

○日 時 2月18日(木) 14:00～17:00

○会 場 東京本館 新館講堂 (定員300名)

○プログラム (同時通訳付き、入場無料)

・基調講演 ジャン=エリック・ジッケル氏 (Prof. Dr. Jean-Eric Gicquel)
(レンヌ第1大学法学・政治学部教授)

・パネルディスカッション

パネリスト 山元 一 氏 (慶応義塾大学大学院法務研究科教授)
(発言順)

伊藤 洋一 氏 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

コーディネーター 棟居 快行 (当館専門調査員、

調査及び立法考査局政治議会調査室主任)

○申込方法

ホームページの参加申込みフォームから2月17日(水)までにお申し込みください。定員に達した時点で受付を終了します。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) > イベント・展示会情報 > 国際政策セミナー (講演会) 「グローバル化の中の議会の役割—欧州の経験から日本への示唆」

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/ips2015.html>

または、①講演会名 (「国際政策セミナー」)、②氏名 (ふりがな)、③所属機関等、④電話番号を明記の上、FAXでお申し込みください。

○申込み・問合せ先

国立国会図書館 調査及び立法考査局 調査企画課 連携協力室 (担当: 福林・川鍋・小澤)

FAX 03 (3581) 2603 電話 03 (3581) 2331 (代表)

お知らせ

■ 平成27年度の 利用者アンケートの 結果を公表しました

国立国会図書館では、利用者の多様なニーズを把握するため、来館利用者に対するアンケートと遠隔利用者（来館せずに利用できる各種サービスの利用者）に対するアンケートを、毎年交互に実施しています。

平成27年度は、来館利用者に対するアンケートを実施しました。東京本館、関西館および国際子ども図書館の来館利用者を対象としたアンケートに加え、東京本館の議会官庁資料室、人文総合情報室、科学技術・経済情報室、憲政資料室の来室者を対象としたアンケートも実施しました。

実施期間・日数、回収数等は下表のとおりです。アンケート結果の詳細はホームページで公表しています。ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。この結果をふまえて、サービスや業務の改善に活かしてまいります。

(アンケートの概要)

実施場所		実施期間・日数	配布数 (枚)	回収数 (枚)	回収率
東京本館		8/27～8/29 (3日間)	3,777	1,886	50%
関西館		7/25～8/15 (19日間)	1,751	1,025	59%
国際子ども図書館 (18歳以上)		7/25～8/11 (15日間)	2,735	1,061	39%
国際子ども図書館 (18歳未満)			1,429	530	37%
東京本館 専門室	議会官庁資料室	8/10～8/22 (11日間)	311	221	71%
	人文総合情報室		200	135	68%
	憲政資料室		116	99	85%
	科学技術・経済 情報室		8/10～8/25 (13日間)	790	400

○URL http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/enquete2015_01.html

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国立国会図書館について>利用者アンケート>平成27年度来館利用者アンケート結果

お知らせ

■ 国際子ども図書館講演会 「イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェット —絵に生きる—」



エミリー・グラヴェット氏

国際子ども図書館は、世界的な児童文学作品の国内への紹介、普及を目的とし、イギリスの著名な絵本作家エミリー・グラヴェット氏を招き、講演会および関連イベントを開催します。この講演会は、宮城県図書館、大阪府立中央図書館および大阪国際児童文学振興財団との共催により、宮城県と大阪府でも実施します。いずれも入場無料です。どうぞご参加ください。

○主催 国立国会図書館国際子ども図書館、宮城県図書館、大阪府立中央図書館、大阪国際児童文学振興財団

○詳細 (1) 東京講演会

①日時 2月21日(日) 14:00～17:00

②会場 国際子ども図書館アーチ棟1階研修室1

③対象 中学生以上(定員100名程度)

④申込 申込みフォームからお申し込みください。(1月6日(水)受付開始・先着順)

国際子ども図書館ホームページ > 展示会・イベント > イベント情報 > これからのイベント > 講演会「イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェット—絵に生きる—」

URL <http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2016-01.html>

⑤問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課 電話 03(3827)2053

(2) 宮城講演会

①日時 2月24日(水) 14:00～17:00

②会場 せんだいメディアテークオープンスクエア

(宮城県仙台市青葉区春日町2-1)

③問合せ先

宮城県図書館 企画管理部 企画協力班 電話 022(377)8444

(3) 大阪講演会および子ども向けワークショップ

①日時 講演会: 2月27日(土) 13:00～16:00

ワークショップ: 2月28日(日) 13:00～16:00

②会場 大阪府立中央図書館2階多目的室

(大阪府東大阪市荒本北1-2-1)

お知らせ

③問合せ先

大阪府立中央図書館 電話 06 (6745) 0170

※全講演会とも日英逐次通訳付き。内容は概ね同一です。

- その他 宮城講演会の詳細については宮城県図書館、大阪講演会およびワークショップについては大阪府立中央図書館または大阪国際児童文学振興財団のホームページ等をご覧ください。

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 778号 A4 66頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会

近代オリンピックと文化プログラム—2020年東京オリンピック・パラリンピック
競技大会に向けて—

EUにおける税の透明性の確保—ルーリングに関する自動的情報交換—

女性議員の増加を目的とした措置—諸外国におけるクォータ制の事例—(資料)

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

CONTENTS

- 02 New Year Greetings for 2016: With deepening cooperation and dialogues
- 04 <Book of the month - from NDL collections>
Memorial photograph album of an art mission for friendship between Japan, Germany and Italy: Violets bloomed just before the outbreak of World War II — Takarazuka Girls Revue Company public performances in Europe
- 06 The Gordon W. Prange Collection, University of Maryland Libraries: a goldmine of publications in the Occupation period of Japan
- 10 On-the-spot report from NDL expatriate staff in Washington, D.C.
- 14 What's bibliographic control? Revisited (4): Authorities are important—Let's use the Web NDL Authorities! (Part Two of Two)
- 17 Materials from the Special Purpose Reading Room (3): picture postcards
- 20 Travel writing on world libraries: Riyadh, Saudi Arabia
- 28 The NDL in figures: from the Annual Report of the NDL, FY2014
- 30 Answers to questions about the Digitized Contents Transmission Service for Libraries: Part 1 of 2
- 27 <Tidbits of information on NDL>
Let's put books on display: FY2015 Children's Day for Visiting Kasumigaseki
- 34 <Books not commercially available>
○ *Ginkōken ni miru kingendai sekai no kuniguni*
- 35 <NDL NEWS>
○ Rules & regulations
○ FY2015 meeting between the Librarian of the NDL and directors of university libraries
- 36 <Announcement>
○ Demonstration experiment on a collection of ebooks and emagazines launched
○ International Policy Seminar "The functions of parliament in the global era—suggestions for Japanese politics from the EU experiences—"
○ Results of the user questionnaire survey FY 2015 now open to the public
○ Lecture at the International Library of Children's Literature: "Emily Gravett—Living in Pictures"
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 28 年 1 月号 (No.657)

平成 28 年 1 月 1 日 発行

発行所 国立国会図書館
編集者 小寺正一
責任者

印刷所 株式会社 正文社印刷所

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「大江戸しばゐねんぢうぎやうじ ワキ狂言」
安達吟光[画] [東京] 長谷川寿美 明治30(1897)
錦絵 1枚 37.8×25.7cm
(「大江戸芝居年中行事」<請求記号 寄別8-4-2-1>所収)
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1309615>

国立国会図書館月報

平成28年1月1日発行 (毎月1回1日発行)
(1月号通巻657号)